

復旧の最前線で奮闘

県職員・小野さん、金本さん



河川工事現場で工事責任者と作業状況を確認する金本さん（中央左）と小野さん（中央右から2番目）
2025年12月25日午後、石川県輪島市門前町和田



発生2年
続く派遣

1日で発生から2年を迎える能登半島地震で、県は発生以降延べ569人の職員を被災地に派遣し、復興を支えてきた。現在も6人の職員が、石川県内で道路や河川の災害査定対応などに当たる。輪島市内では小野敬之さん（41）と金本大輝さん（29）が、復興への前進を感じながら土木工事の最前線で奮闘している。（竹内美鈴）

経験生かし、前進手応え



292

中学生向け
年組

2人とも、本県に深刻な被害をもたらした19年の台風19号で復旧に従事した。小野さんは「当時の経験から得た知識や失敗事例、山間部の道路工事に関する」が役に立っている」と強調する。金本さんは「測量や設計中心から、ようやく工事を発注できるまでになつてきた。復興に向けて動き出せている」と手応えを実感する。

同課の濱口賢一課長（54）は「土地勘もなく、作業も栃木県の業務と異なる部分もある中で頑張ってくれている」と、協力を心強く思っている。

発生から2年がたち、通行止めの道路が通れるようになるなど、住民生活の動線は最低限復旧しつつある。一方、24年9月には豪雨災害が追い打ちをかけ、2人は「被災箇所の数や規模が大き過ぎる」とも痛感する。住民と業者、関係機関との工事の調整が思うように進まないこともあり、作業人員の不足も課題となつている。

任期は残り3カ月。金本さんは「やれることを精いっぱいやりきり、後任にしっかりと引き継ぎたい」と力

2026年1月1日付・下野新聞3面

記事は加工しています

設問

【1】記事内の次の漢字の読みをひらがなで書きましょう。

①復旧②傷跡③延べ④護岸⑤携わる

【2】記事内の□に当てはまる「やり方、手順、専門的技術や知識」という意味の外来語を、カタカナ4文字で書きましょう。

【3】本文の内容に合う選択肢を一つ選びましょう。
ア、小野さんと金本さんの派遣任期はそれぞれ2年間である。
イ、小野さんと金本さんは、被災地において、栃木県で担った経験のある業務と全く関係ない業務に従事している。

ウ、小野さんと金本さんは、栃木県職員として初めて被災地に派遣された。

エ、2024年9月の豪雨災害が震災復興に与えた影響は限定的であった。

オ、小野さんと金本さんは、被災地において、河川や道路の復旧事業に携わってきた。

【4】記事の内容を説明した次の文の〈①〉〈②〉に合う数字や語句として、最もふさわしいものを、後に続く（ア）～（オ）からそれぞれ選びましょう。
・栃木県が能登半島地震復興のために派遣した全職員のうち、半年から1年の中長期の任期だった職員は、約〈①〉％であり、小野さんと金本さんはこの中に〈②〉。
（ア）2（イ）20（ウ）98（エ）含まれる（オ）含まれない